

専徳寺報

第436号

平成30年1月8日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

http://sentokuji-iwakuni.net/

専徳寺

検索

御正忌報恩講法要

惠信尼公(親鸞聖人の妻) 750回忌法要

御案内

ご開山・親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、一年で最も大切な法座です。万障おくりあわせてご参詣ください。

日時

1月18日(木)	昼1時半～3時半
19日(金)	昼1時半～3時半 夜7時半～9時
20日(土)	昼1時半～3時半

講師

18日………前住職
19日・20日…本願寺派布教使・輔教
若林 真人 師(大坂)

◆お斎料は500円、地区割りは

18日…灘 地区(11時半～13時)
19日…通津地区(11時半～13時)
※20日のお斎はありません。

◆御伝抄拝読…19日昼座と夜座

親鸞聖人のご生涯を曾孫の覚如上人が書きつづられた『御伝抄』を拝読します。

ついたち礼拝(月のはじまりはお寺から) 次回…2月1日(木)。午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。どなたでもお参りできます。

◆大速夜と万灯会 19日夜座

聖人のご臨終を偲ぶ厳肅な法座です。

◆仏具回収…ご家庭でご不用となった仏具(お念珠、仏壇の荘厳具等)を回収いたします。

●聖典、聴聞カードもお忘れなく。

●法話中の帳場受付はお休みです。

●2018年カレンダー…まだお持ちでない方はご自由におとりください。

惠信尼公

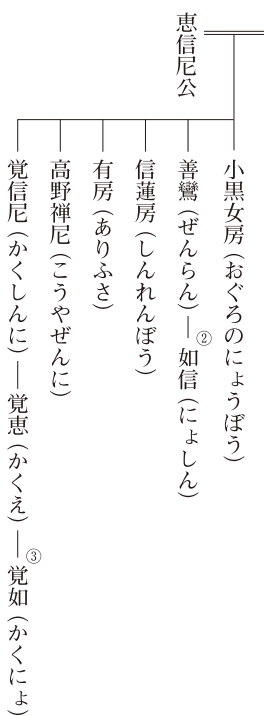


親鸞聖人の妻。三善為則の娘。親鸞聖人とは京都で結婚されたようであり、聖人の越後への流罪(聖人35歳)、そして関東移住(聖人42歳)に同行し、晩年は越後(現在の新潟県)で暮らされた。文永5年(12)68・87歳の時のお手紙が最後のものと推定されている。



惠信尼廟所

親鸞聖人の家族図



*丸数字は歴代門主

如来・人・言葉 108

「俺が引き受けたから
心配するな」



梯実円和上

「ご開山さま、ありがとうございます。あなたのおかげで私もあなたと同じお念仏をいただいて、あなたと同じご信心をいただいて、同じお浄土で今度は遇わせていただきます」と、お礼をいうためにお参りにこられたんや。それが報恩講です。

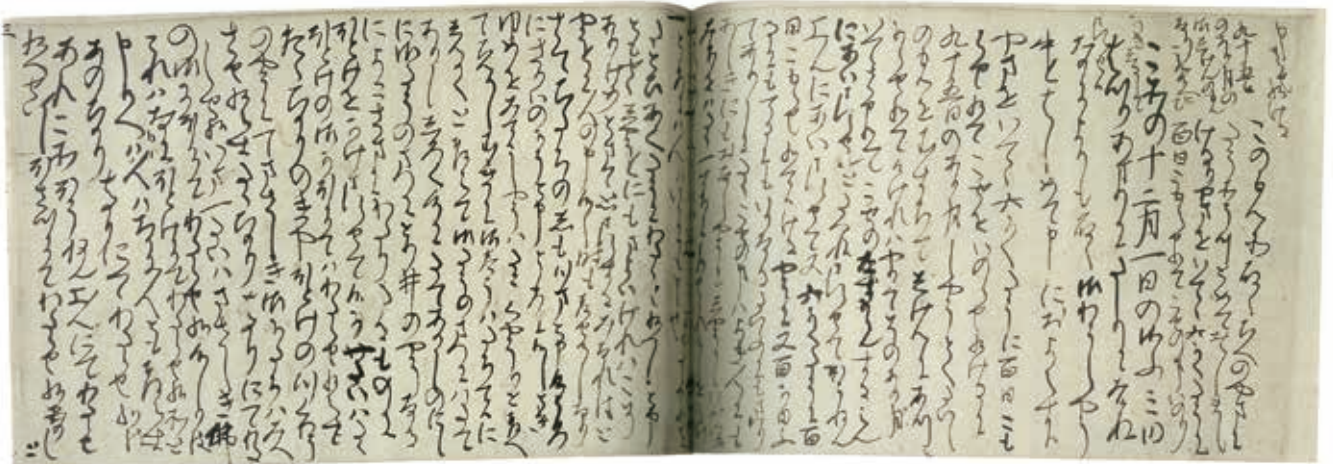
阿弥陀さまのお救いがいちばんハッキリするのは、「なんまんだぶ」という声です。お念仏を称えればこの声が聞こえてくるはずだ。聞こえなんだから称えなはれ。称えたら聞こえてくるだろう。なんぼ耳が遠うても、自分のいうた声は聞こえるわ。阿弥陀さまがね、「必ずたすけるぞ、私にまかせなさいや」

とおっしゃってくださっているんです。このお言葉に対して、そうやったなあど気がつかなんなら黙つとつたつてええ。いや、「たすかる」というてくださつてんねんから、黙つとつたかて助けてくださる。そうでしょ。

信心ちゆうのは、ワシがしっかりすることとちやいませ。病氣でもしてみなはれ、シツカリなんかできますか。そしたらシツカリせよというのは、仏さまが私におっしゃつてると違うだろ。仏さまのほうが「心配するな、私がシツカリしているから、俺にまかせとけ」とおっしゃつてるんですよ。だから「ありがとうございます」といいなはれ。いえなんだからそれでもええわ、それでええ。まかせといったらええんだ。それが「まかせ」ということや。阿弥陀さまは「たすけてやるぞ」とおっしゃる。それが「なんまんだぶ」という言葉ですよ。「俺が引き受けたから心配するな」というのが、南無阿弥陀仏という言葉の意味なんだ。ご開山はそうおっしゃる。

〔伝道〕 2015 No.84

星野親行師の寄稿より



惠信尼消息 第三通

恵信尼消息

大正十年、わしおきょうどう 鷲尾教導師によって恵信尼さまのお手紙『恵信尼消息』が発見・公表されます。

それまで知られていなかった親鸞聖人の種々の出来事が述べられてあり、極めて重要な史料です。

第三通

『恵信尼消息』第三通は、末娘・覚信尼からの親鸞聖人臨終のしらせに對して、聖人の生前の様子を追慕して書きつづった手紙です。聖人が比叡山で堂僧をつとめていたこと、六角堂に百日間参籠し、聖徳太子の示現を得て、法然上人のもとを訪れたことなど、親鸞聖人自らがほとんど語らなかつた聖人の半生を知ることができます。また、後半には恵信尼様が、法然上人を勢至菩薩の化身、親鸞聖人が観音菩薩の化身であるという夢を見て以来、親鸞聖人のことを観音の化身として敬っていたことを打ち明けておられます。

【第三通 現代語訳】

去年の十二月一日付のお手紙、同二十日過ぎに確かに読みました。何よりも聖人が浄土に往生なさったことについてはあらためて申しあげることありません。

聖人は比叡山を下りて六角堂ろっかくどうに百日間こもり、来世の救いを求めておられたところ、九十五日目の明け方に、夢の中に聖徳太子が現れてお言葉をお示しく下さいました。それで、すぐに六角堂を出て、来世に救われる教えを求め、法然上人にお会いになりました。そこで、六角堂にこもったように、また百日間、雨の降る日も晴れた日も、どんなに風の強い日もお通いになったのです。そして、ただ来世の救いについて、善人にも悪人にも同じように、迷いの世界を離れることのできる道を、ただひとすじに仰せになっていた上人のお言葉をお聞きして、しっかりと受けとめられました。ですから、「法然上人のいらっしやる所には、人が何といおうと、たとえ地獄へ墮ちるに違いないといおうとも、わたしはこれま

で何度も生れ変わり死に変わりして迷い続けてきた身であるから、どこへでもついて行きます」と、人がいろいろといつたときも仰せになっていました。

さて、常陸ひたちの国、下妻しもつまのさかいの郷というところにいたとき、夢を見ました。それはお堂の落慶法要かと思えます。お堂は東向きに建っていて、宵祭よいまつりが行われているのでしようか、お堂の前にはたいまつが明るく燃えていました。たいまつたいまつの西のお堂の前に、鳥居のようなものがあり、その横木に仏の絵像が掛けられていましたが、一つは普通の仏のお顔ではなく、仏の頭光のようであり、はっきりとお姿を拝見することができず、ただ光輝こうきいているばかりでいらっしやいました。もう一つは確かに仏のお顔でしたので、「これは何という仏さまなのでしようか」と尋ねると、答えた人は誰であるかよくわかりませんが、「あの光輝こうきしているばかりでいらっしやるのは、まさしく法然上人です。それは勢至菩薩なので」というので、「それでは、もう一方は」と尋ねると、「あれは観音菩薩です。まさしく善信房ぜんしんぼう（親鸞聖人のこと）なの

です」というのを聞きました。その

時はつと目が覚めて、夢であったと

わかったのです。けれども、こんな

ことは人に話すものではないと聞いて

いましたし、わたしがそのような

ことをいったところで、人は本当の

ことだと思わずががないので、まっ

たく人にもいわないで、法然上人の

ことだけを聖人に申しあげると、「夢

にはいろいろあるけれども、それは

正夢です。法然上人は勢至菩薩の化

身であるといわれ、それを夢に見る

こともよくあるといわれます。また、

勢至菩薩はこの上ない智慧そのもの

であり、それはそのまま光となって

輝いていらつしやるのです」と仰せ

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

11月16日御往生

海土路 古江登志子様 (73)

喪主 古江 益嵩様

12月24日御往生

通津 河本 知之様 (82)

喪主 河本 政則様

12月24日御往生

北町 和泉 博子様 (72)

喪主 和泉 嘉幾様

ご恩を偲び〔法事勤修〕11月6日〜12月〕

【通津】山本フミコ13、多山博通3、藤川典

雅25、田中稔100、村重悌夫150、深井晃7、

米重佳哉17・33、藤重宏幸3、浅井佐100、

大田峻秀33、朝本弘子100、【保津】村田金吉

1、赤崎弘文3、藤崎克己150、秋嶋保夫

17・25、穴水輝見7、穴水悟司3、【藤生】

藤中利浩13、藤本静子7、村本博子25、【青

木】別広隆美1、松村光昭17、広重八重子

25、村中恒友13・50、木村勲7、【黒磯】森

本公之3、【由宇】蔵田秀夫13・13、【市

内】村岡房江7、山本正輝3、岩中和男

1、松井源輝3、清中千恵子1、【東京】蔵

重衆治7・33



ありがたくぞんじます

〔永代経志納〕

尊い永代経志を賜りました。謹んでお供えいたします。

33回忌のご縁に

金 壹拾萬円也

本町 大田 峻香様

ご報告いたします

法要余香 (永代経法要 11月24・25日)

【講師】白石智昭師。

【参詣者】24日・昼座85名・夜座30名、25日・昼座78名。

【お鉢米】半田正昭、岡迫博人、藤中征治

寒い2日間でしたがようこそお参りくださいました。

ご講師の白石先生は初のご縁でした。笑

いありの楽しく尊いご法縁でした。

専徳寺倶楽部冬の集い (12月16日)

今年も大勢の方がお集まりくださいました。煤払や溝掃除、庭木の剪定等、境内が

美しくよみがえりました。

【参加者】浅井佐、小方基史、

沖原政裕、賀屋国昭、岸井

清市、木戸久夫、白田直則、

白田憲光、多山博通、半田

正昭、藤重秀男、増本英一郎、

増本真一、村中悟、森上博之、

森田幸一



専徳寺納骨堂受付中 (パンフレットが本堂にあります)